

ごあいさつ

第39回山崎賞授賞式を3年ぶりに開催することができました。開催に当たり御尽力いただきました皆様に、まずもって感謝申し上げます。

本年度は、県下の小学校、中学校及び高等学校から177件の応募をいただきました。選考委員会での厳正な審査の結果、児童・生徒の部65件、教員の部1件を顕彰することとしました。これらの研究は、日ごろの地道な努力の積み重ねの上に成果をまとめられ、更に今後の発展が大いに期待されるものでした。受賞された皆様に、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

本振興会は、未来を担う青少年の「科学の芽」を育てることを目的として、昭和58年に山崎貞一氏によって設立されました。以来、自然科学分野の研究への助成事業、研究成果への顕彰事業及び科学教室、講師派遣、研修会支援などの啓発事業の3つを柱として実施してまいりましたが、来年度、創立40周年を迎えることとなりました。これもひとえに皆様の御理解と御協力のおかげであり、感謝申し上げます。現在、記念事業の準備を進めているところですが、今後、更に本県の青少年の自然科学研究、そして学校・先生方の自然科学教育の充実発展のために、微力ではありますが支援してまいりたいと考えておりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

さて、昨年11月から12月にかけて、温室効果ガスによる地球温暖化の防止や生物多様性の維持についての対策が、国連の会議で協議されました。これらの課題は、これまでも継続的に協議されてきたことですが、各国の実情や思惑などが異なっているため、その解決への道は一筋縄では進んでいないのが現状です。

このように、地球の自然に関する課題であっても、科学的なアプローチだけでは解決に向かっている場合があることを認めながら、それでもなお、一つでも多くの科学的な知見を積み上げ、解決のための提言を行っていかねばならないと感じています。なぜなら、そのことによって、今まで不可能だとされてきたことが可能となることが大いにあるからです。そのためにも、皆さんには、日ごろから「なぜだろう」「どうしてだろう」という素朴な疑問を大切に、探究する力を鍛え磨いてほしいと思っています。そして、本振興会の事業が、その一助になれば幸いです。

結びに、これまで児童・生徒の研究を熱心に御指導してくださいました先生・保護者の皆様、日ごろから積極的に自然科学教育に取り組んでおられる学校・先生方、御支援・御協力をいただきました多くの関係者の皆様に、感謝を申し上げます。そして、長時間にわたり熱心に選考に当たっていただきました飯田選考委員長をはじめ選考委員の方に、衷心より感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

令和5年2月18日

公益財団法人 山崎自然科学教育振興会
代表理事 安倍 徹